

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 実施機関：山口大学教育学研究科（教職大学院）、NITS 山口大学センター 連携機関：山口県教育委員会、山口県 PTA 連合会
コラボ研修プログラム	事業名：NITS・山口大学教職大学院コラボ研修 「保護者と創造する学校の未来づくりセミナー（NITS カフェ）」
支援事業報告書	研修等名：NITS・山口大学教職大学院コラボ研修 「保護者と創造する学校の未来づくりセミナー（NITS カフェ）」
	開催日時：令和 5 年 12 月 23 日 10:00~17:00 開催場所：セントコア山口（山口県山口市湯田温泉 3-2-7） 参加人数：74 人 同 属性：講師 1 人、指導助言者 9 人、現職教員 32 人（小 15、中 10、高 5、特支 2）、学生 16 人、教委等 3 人、大学教職員 13 人

内容：

(1) 開会行事

主催者（教育学研究科）を代表し、鷹岡 亮研究科長が、参加謝辞、NITS カフェの意義、「ちゃぶ台」の理念と保護者の関わり、教職員の成長とカフェスタイルへの期待等を盛り込んだ開会の挨拶を行った。

その後、NITS の紹介、「山口県教員育成指標」の位置づけ、日程説明、指導者紹介と諸連絡を行った。

(2) カフェ（班別ちゃぶ台ワーク）

午前は、山口県 PTA 連合会役員（単位 PTA 会長等）と参加者が「子どもの成長、自立と保護者の願い、教職員の想い」をテーマにカフェを行った。班は児童生徒の発達段階、PTA 活動や学校と地域の連携・協働活動の質・量的違いや学校と保護者の距離感等を考慮し、校種別の 9 班編成とした。

はじめに、自らの PTA や活動との関わり、保護者との連携・協力による好事例や好転経験を盛り込んだ自己紹介を行った。学校（教職員）の多忙化、学校行事縮小の流れにコロナ禍が追い打ちをかけ、日頃、保護者と語りあう機会や余裕に乏しい教員、特に若手教員にとっては、緊張した空気の中にも、温かく穏やかにカフェが楽しみにもなるアイスブレイクとなった。

続いて、事前探求課題をもとに「保護者と共に考えてみたいこと」を共有した後、テーマを絞り協議や意見・情報交換を行った。全ての班で自由闊達な協議がなされたが、特に、「保護者から信頼される教職員とは」、「学校と家庭の良い関係をつくることの出来る教職員が持っている力」、「PTA や連携活動において教職員が、保護者が出来ること、出来ないこと」、「共に育てたい子どもたちの姿と自分たちの役割」を取り上げた班が多かった。本カフェが期待した「相互を良き理解者・パートナーとして再認識し、信頼と協働の関係の上で「教職員に求められる力（資質能力）や成長を考え、今後の教育・学校像を共に描くことができる」に近づいたカフェとなったと評価している。

その後、児童生徒の健全育成に向けて「学校と家庭（地域）の連携・協働のアイデア」創造のワークを行った。山口県では、幼稚園を除く全公立学校がコミュニティ・スクールに指定され、学校・地域の連携・協働による「人づくりと地域づくりの好循環」が進められているが、特に PTA や PTA 活動に視点を当てた取組を、保護者と一緒に考えることにより、教職員の役割、学校の価値や存在意義や 1+1 ≥ 3 とできる教育のあり方等について思考を広げることが出来た。学力向上、道徳や人権教育の充実に向けた保護者の参画、地域のつながり形成に向けた学校の起爆剤的取組、SNS を通じた児童生徒+保護者の情報発信、子どもや家族の居場所づくり等々、現在の社会・地域事情や課題を反映したプロジェクト提案もなされ、それぞれの笑顔と「らしさ」が溢れるワークショップとなった。



(3) 講演、講評

午後は、横浜創英中・高等学校の工藤勇一校長による講演「社会の変化とこれから学校教育～主体性と当事者意識～」をオンラインで行った。変革を迫られている教育界において「教育の本質とは、それぞれが当事者意識をもって考え、動くこと」、「最上位目標を明確にして自己決定できる自立した人間を育てる」を信念とし、様々な学校改革、学校づくりに取り

組む先導者、指導者らしさ溢れる迫力ある講演を、現職教員、教職志望学生、教委担当者と保護者が一緒に聴き、協議や意見交換をすることで、学校や教育の未来を考える貴重な機会となった。

その後、山口県教育庁教職員課の丸山茂生管理主事が、教職員、教職志望学生と保護者による今回のカフェ（スタイル）の魅力と先進性を指摘した後、これからの学校や教育のあり方、教職員の成長に対する県教委の取組等について講評、報告を行った。

(4) 閉会行事

最後に、NITS 山口大学センターの和泉研二センター長が謝辞および閉会挨拶を行い終了した。

成果：

研修後の振り返りは、各研修内容や形態に関する評価、学びの内容、気づきと自己の変容についてレポート提出により行った。全てのレポートに「高い満足度」、「研修の充実感」、「カフェスタイルの強みと可能性」、「保護者との交流の意義、大切さの体感と謝意」が示され、「次年度も実施してほしい」との要望も続出した。内容や様子は「内容(2)」で概括したが、紙面の関係から、今回はカフェについてのコメントから一部（抜粋）を紹介する。

・ カフェの魅力は、同じテーブルを囲み、志ある人々が立場、校種や年齢を越えて語りあえるところと思う。多様な考え方、自分に無かった視点にふれる中で、自身の教育「観」を振り返り、明日からの自分を前向きにとらえ直すことができる貴重な場と感じた。今回、「保護者」の方の視点を伺うことができることを楽しみにしていた。

PTA は、世間的にも、教職員にとっても、保護者の組織というイメージがある。同じ班の若い先生は「PTA の仕事は管理職の仕事というイメージがあり、直接会議等に関わることはない」と言われた。業務改善の波の中で多くの学校が同じような状況なのではないか。一方で保護者の方は「最初の頃、なぜ PTA の会議に管理職しか関わらないのか疑問だった」と仰った。教職員や保護者の多くが PTA の意義、活動内容や連携の可能性について知らない状況は、すぐにでも改善しなければならないが、そのためのヒントが今回のカフェにあると実感した。

カフェをとおして、保護者と教職員が情報や思いを「共有」することが、子どもの成長という共通の目的に向かっていくために大切な要素と考えた。山口県では、コミュニティ・スクールの機能が充実しているので、各学校の工夫のもと、役員だけではない保護者と、管理職だけではない教職員が、今回のカフェのようにテーブルを囲み、子どもの成長を話題にして話す場を設定できないかと考えた。ぜひ実施してみたいと思っている。

・ 保護者の方から、「先生たち、がんばりすぎているよ。忙しすぎるよね。」と心配して貰いました。その他諸々の話をする中で、PTA の「T」が「Teacher」であることを私たち教員はどれだけ意識できているかな？と、これまでの自身の関わり方や学校の空気感を振り返る貴重な経験の場でした。

勤務校では、管理職の「配慮」により、勤務時間外の PTA 会合等に参加することは求められません。様々な PTA 行事も教員の業務改善や役員の負担軽減を理由に精選されています。それらが積み重なって、同じ組織に属する「P」と「T」のつながりがどんどん薄れていることを改めて感じています。

ご一緒した役員さんのように、子どもたちと学校のことを思い、さらにはそれを「自分の成長のため」と捉え、熱心に活動に取り組む保護者や教職員がどれだけいるでしょう。「P」と「T」と別々に捉えるのではなく、共に子どもの学びと育ちを支援する仲間、学び成長し続ける大人同士として、活動を楽しめる組織にしたいと思いました。

・ 教職大学院の学校実習に行っても、保護者の方と話すことはないもので、新鮮で学びが多かったです。保護者の方の学校や教員に対する熱い思い、教員を信頼して率先して動かれる行動力が、学校と家庭の連携協力を支えているんだと改めて感じました。教員になった際には保護者の方と積極的に関わっていこうと思いましたし、保護者の方との関わり方について不安がありましたが、今回のカフェでその不安が少なくなりました。

アイデアや工夫したこと：

(1) 教職員が保護者と親和的に交流し、学校や教育等への思い、願いや姿勢等を共有し、相互信頼の中で協働に向かう研修が少ないことから、カフェ形式の導入、山口県 PTA 連合会との連携を企画したこと。



(2) カフェ形式の魅力である心地よさ、温かさや空気感を大切にするための工夫（余裕ある研修日程、集いやすくゆとりある会場確保）とともに、内容の質的充実も図るため、「事前探求課題」を設定したこと。

(3) 講演では、確かな教育理論や最新の情報を有し、学校改革、学校づくりに取り組む実践家、現職校長を招聘し、参加者に会わせることをとおして、「学び続ける教師」、「チャレンジする教師」としての力量形成、資質能力向上に好影響を与えようと意図したこと。

(4) カフェでは、本学が 18 年の経験を有する「ちゃぶ台方式 = カフェ形式」のノウハウやワークツールを活かすこととし、参加者の立場、校種、経験年数等による「上下」、「一方的」関係を防ぎ、協働的關係性の中で協議や交流が進むよう配慮したこと。